



裏表紙原画(ぎもの絵本) 1940年 河口湖中原淳美術館蔵

没後20年 中原淳一展

—装う、暮らす、生きる。すべてに「美」を求めた芸術家の生涯—

2003年4月26日 土 — 6月1日 日

休館日: 4月28日[月]・30日[水]、5月6日[火]・12日[月]・19日[月]・26日[月]

開館時間: 午前9時—午後5時 (金曜日は午後7時まで開館、入館は閉館時間の30分前まで)

入場料: 一般600(400)円、高・大生400(200)円、中学生以下は入場無料 ()内は前売り及び20名以上の団体料金

前売券の販売先=サークルK(愛知・岐阜・三重・長野県下の各店舗)、チケットぴあ、ファミリーマート、他

※身体障害者・精神障害者保健福祉・療育の各手帳所持者及び付き添いの方(1名)は入場無料。手帳をご持参ください。

主催=刈谷市、刈谷市教育委員会、刈谷市美術館、朝日新聞社

後援=愛知県教育委員会

特別協力=河口湖中原淳一美術館

協力=有限会社ひまわりや

刈谷市美術館
Kariya City Art Museum

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
TEL (0566) 23-1636 FAX (0566) 26-0511
<http://www.city.kariya.aichi.jp/museum/>

没後20年 中原淳一展

一装う、暮らす、生きる。すべてに「美」を求めた芸術家の生涯



表紙原画(『ひまわり』第4巻 第4号) 1950年 ※

つぶらな瞳の可憐な少女を描き、戦前から戦後にかけて10代、20代の女性たちを魅了した中原淳一(1913-1983)。彼が紹介したファッションやライフスタイルをはじめとした提案は、現代でも新鮮な輝きを放ちつづけています。没後20年という節目に開催される本展は、雑誌、ファッションデザイン、人形や衣裳、音楽活動など幅広く活躍した中原淳一の仕事的全貌に迫ります。中原淳一は1913(大正2)年、香川県に生まれました。幼い頃から絵と人形づくりを好んだ中原は、傾倒する竹久夢二のような画家を志し、15歳で日本美術学校へ入学。数年後には洋装店のデザイナーに迎えられ、かたわらに制作した人形が評判となり、1932(昭和7)年に人形展を開催。これをきっかけに少女雑誌『少女の友』の編集者から才能を見出され、挿絵画家としてデビューしました。彼が描く美しく華麗な少女の表紙絵や挿絵は瞬間に大人気を獲得、カリスマ的な看板画家になりました。戦後には、自ら『それいゆ』・『ひまわり』といった雑誌を次々に創刊。当時の女性たちから圧倒的な支持を獲得し、一躍時代の寵児となりました。しかし、絶頂期の1958(昭和33)年病に倒れ、闘病生活を余儀なくされます。病との戦いが続いた晩年も、仕事への意欲は失せることはありませんでした。



花束 1930年 ※

本展では、初期から晩年までの雑誌の表紙原画、スタイル画、物語挿絵、人形、ウェディングドレスなど500余点を展示します。初公開の初期油絵や人形、未発表の雑誌原稿なども特別に出品します。また、「新婚の家庭」をテーマに中原が提案した室内インテリアも再現し、今なお色あせない中原美学をご紹介します。



子供のよそゆき(『590スタイル子供のスタイルブック』原画) 1953年 ※

会期中の催しもの

I. 期間限定カフェ「ヒマワリ」4月26日[土]、27日[日]、5月3日[土]→5日[月]
開催時間=午前11時→午後4時(開催中の呈茶・お抹茶はありません。ご了承ください。)
中原淳一展にあわせて、美術館隣の茶室<佐喜知庵>では、中原が挿絵を描いたお菓子を再現展示する期間限定カフェ「ヒマワリ」を開催します。淳一調のカフェで楽しいひとときをお過ごしください。【有料】

II. つくる&みるプログラム【要事前申込み】／講師：山口ももこさん(美術家)

①「ファッションページをレイアウト」

5月3日[土] 午前10時→午後4時／対象：18歳から大人
参加費：500円(レクリエーション保険代+材料費) ※要展覧会チケット／定員：24名
中原が手がけたスタイルブックやファッションページを鑑賞した後、今度は自分だけのファッションページをレイアウトします。ファッション雑誌のエディターに挑戦です。

②「親子でチャレンジ!きせかえドール」

5月11日[日] 午前10時→午後3時30分と午後2時→午後4時30分
対象：5歳から小学2年生の親子／定員：各親子12組(親子1組2名)
参加費：300円(レクリエーション保険代+材料費) ※保護者は要展覧会チケット
紙をつかってきせかえ人形をつくります。ステキなドレスやおしゃれなバック。あなたはなにをきせかえますか?親子ふたりでチャレンジします。

③「わたし企画の付録づくり」

5月18日[日] 午前10時→午後0時30分と午後2時→午後4時30分
対象：小学3年生から中学生／参加費：300円(レクリエーション保険代+材料費)
定員：各24名
少女雑誌『少女の友』、『ひまわり』では、中原の企画するカワイイ付録が大人気でした。中原が手がけた付録を鑑賞した後、今度はあなた企画の付録をつくります。

申し込み方法

「往復はがき」か「FAX」にて、参加したいプログラム名(②③は時間帯も明記)、参加者名「ふりがな」、住所、TEL/FAX、年齢【学年、学校名、保護者名】をご記入のうえ美術館までお申し込みください。なお、返信用はがきにも住所と名前を記入してください。 ※定員をこえた場合は抽選とし、結果をお知らせします。しめきりは、それぞれの開催日の10日前(必着)まで。
あて先：〒448-0852 刈谷市住吉町4-5 刈谷市美術館
FAX0566-26-0511

III. ギャラリートーク【当日受付】

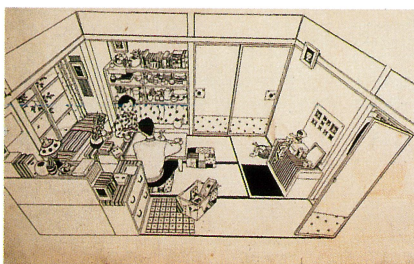
5月5日[月]・10日[土] 午後2時→午後3時
聴講無料(要展覧会チケット)
開始時刻に1階ロビーの展覧会入口へお集まりください。



シンデレラ姫(『ひまわり』第1巻 第1号 原画) 1947年 ※



カルピス広告原画(『きもの絵本』) 1940年 個人蔵



「ふたりはこんな部屋に住む」
(『それいゆ』第14号原画) 1950年 個人蔵
※中原淳一が考案した「新婚の家庭」の世界を会場内に再現します。



表紙原画(『590スタイルブラウス集』) 1953年 ※

※ 河口湖中原淳一美術館蔵



刈谷市美術館
Kariya City Art Museum

交通のご案内 ● JR、名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口より徒歩10分※「刈谷駅」はJR「名古屋駅」から快速で約15分 ● 車：名古屋方面より＝国道23号線(知立バイパス)「一ツ木」出口から約5km 駐車場42台(無料)

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
TEL(0566)23-1636 FAX(0566)26-0511
http://www.city.kariya.aichi.jp/museum/